連載

株式評論家 山本伸一の

兜町スタンダード

今後は「金融政策VS9月相場」の争いか？

前回のコラムでは「夏枯れ相場VS好業績　勝敗の行方は？」と題し、結論として「損失回避のスタンス」を推していたが、掲載後には株価指数が年初来安値を更新。弊社が提供した「リスク回避投資術」を手にされた方は、思わぬ損失を被らずに済んだのではないだろうか。

しかしながら、ここにきて状況は変わりつつある。調整要因の円高圧力と経済指標の軟化に対抗すべく、政府と日銀が協調して「金融政策」を打ち出してきた。事前の「政策期待」が裏切られ続けただけに「ようやく」との感もあるが、底値圏まで調整した株価の見直し材料となるのは間違いない。

ただ、9月相場の季節要因が戻りを阻む可能性を秘めている。データとしては、1949年以降、日経平均株価における9月の月末終値が前月末比で上回った回数は26回。勝率となると42・6％と年間を通じて最も調整色を強める月なのだ。また、過去10年の勝率はわずか2割…。「9月相場」は調整局面に陥りやすいことも強く意識しておくべきだろう。

さて、今後の投資戦略としては「金融政策VS9月相場」の争いを見越して、相場観を一方向に固め過ぎないことが重要だろう。ただ、ボラティリティ上昇で「デイトレード」や売り買いを併用する「ペアトレード」が有効性を発揮すると見ている。弊社では各種マニュアルを提供中。ぜひ、直接問い合わせてほしい。